

プラン・ジャパンの活動報告（2010年春号）

皆様のご支援を有難うございます。皆様のご寄付が活用されている様子を少しでもお伝え致したいと思い、プラン・ジャパンの年次報告書から今回はインドネシアとバングラディッシュの様子を載せさせていただきます。

インドネシア 〈 家庭菜園による栄養改善 〉

インドネシア東部のドンブ活動地域にあるアドウ村では野菜を手に入れることが難しく、5歳未満の子どもの栄養不良は4人に1人に達するほどでした。その為プランは家庭菜園による栄養改善プロジェクトを実施して多種類の野菜の栽培方法や有機肥料の使用方法などを指導し、今ではアドウ村の40%の世帯が家庭菜園を始め、子どもの栄養不良は80%減少したということです。又食料確保と栄養改善を推進する住民委員会が作られ活動を広げています。



育てた野菜を収穫する家族

バングラディッシュ 〈 人々の尊厳を取り戻す小規模金融 〉

バングラディッシュでは人口の50%が1日1,5米ドル未満で生活をしており、物乞いをする人が少なくありません。プランでは北部のチリルバンダール活動地域において NGO と共に、物乞い生活をしている人のための相談にのる集会をひらき、起業や金融について学ぶ機会を提供し、蓄財を条件とした貸付サービスの利用を促しました。

貸付サービスの利用者のアンワラさんの声を載せてみました。



笑顔を見せるアンワラさん一家

“日雇いで働く夫の収入では7人の子どもの養えず、私は家族のために物乞いをしていました。しかしプランの集会に参加し、物乞いは人々からさげすまれていると自覚しました。いまは物乞いを止め融資を受けて洋服の商いで生計を立てています。村の人からも一目置かれるようになり子どもたちも学校に休まず通っています。”



貸付を受けて洋服の商いを始めた女性たち

生活の基盤をしっかり作ることが子どもたちの成長や教育に大切であると感じました。

詳細内容はこれをご覧ください→ http://www.plan-japan.org/mgpn/images/pdf/pn_apc09.pdf

